



## 2016年度看護学部FD小委員会報告：学術活動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2017-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福島県立医科大学看護学部FD小委員会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000589">https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000589</a>

## 学 術 活 動

## 2016年度看護学部 FD 小委員会報告

看護学部 FD 小委員会

2016年度 FD 小委員会の主たる活動は、「新任教員オリエンテーション」と2回の「FD 研修会」の開催である。この他、全学的な FD 推進組織である「医療人育成・支援センター」との有効な連携を図るための協議を行い、新たな協力関係をスタートさせることになったことから、これらの概要を報告する。

## I 新任教員オリエンテーション

本活動は、本学部新たに着任することになった教員を対象に、赴任直後に行なうオリエンテーションであり、今年度は、以下の通り実施された。

2016年度新任教員オリエンテーション		
1日目 2016年4月1日(金) 場所: S510		
時 間	内 容	担 当
9:30-10:30 (60分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•看護学部の理念・組織・委員会活動</li> <li>1) 教育に関する事項 (教育理念・教育目標)</li> <li>2) 組織</li> <li>3) 委員会と活動状況 (委員会議, 親睦会含む)</li> <li>4) 自己点検・自己評価について 個人目標申告書及び活動実績報告書 教育研究活動計画書 (予算の申告)</li> <li>5) 教員が開設している研究会の紹介など</li> <li>•福島県立医科大学看護学研究科に関する事項</li> <li>1) 大学院の理念・目標</li> <li>2) 専攻領域・授業科目</li> <li>3) 入学定員</li> <li>4) 現在の学生数など</li> </ul>	看護学部長 畠山とも子教授
10:30-11:30 (60分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•教務システムについて</li> </ul>	教育研究支援課 近野 由理主事
11:30-12:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>•看護学部の教育課程</li> <li>1) 教育課程全般</li> <li>2) 臨地実習について (実習検討委員会)</li> <li>3) 履修規定に関する事項</li> <li>4) 成績評価</li> <li>5) 大学の行事, 学部の行事について</li> </ul>	教務委員長 畠山とも子教授
12:30~	昼休憩	
14:00-14:45 (45分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•活動状況</li> <li>•実習計画</li> <li>•実習申し合わせ事項について</li> </ul>	看護教育企画委員会 坂本 祐子教授
14:45-15:05 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•看護学部組織の中での FD 委員会の役割</li> <li>1) FD とは</li> <li>2) 委員会活動の実際</li> </ul>	FD 小委員会 亀田 政則教授

15:15-16:00 (45分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•看護学学生部に関する内容</li> <li>1) 学生生活指導</li> <li>2) 大学健康管理センターとの連携</li> <li>3) 就職相談・ガイダンス</li> <li>•広報委員会活動に関する内容</li> <li>1) 看護学部掲示板(デスクネッツ)について 追加・削除等の管理方法を含む</li> <li>2) PC の使用方法について</li> <li>3) 各研究室のPCメンテナンスについて (セキュリティ対策を含む)</li> </ul>	看護学学生部長 本多たかし教授
2016年4月4日(月) 場所:510		
時 間	内 容	担 当
9:00-10:30 (90分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•図書・情報に関する事項</li> <li>1) 学術情報センター(図書館・展示館)の利用方法について</li> <li>2) 大学業績, 研究者データベースシステムについて</li> <li>3) 「講座等図書」の取り扱いについて</li> <li>4) 部門のコピーカードについて</li> <li>5) 学内情報ネットワークシステムについて 認証ID・パスワード メールアドレス イントラネット(デスクネッツ)について</li> <li>6) 大学ホームページ ホームページ概要 ユーザーサポートについて</li> </ul>	学術情報室
11:00	4年次生実習オリエンテーション, 教員紹介	3階N301
別に案内	服務規程・給与・福利厚生・講座研究費・施設使用・駐車場等	一括して事務局から 後日説明あり
各部門で設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部門の教員紹介</li> <li>●部門で担当する授業科目について 授業科目, 担当者, 授業内容 授業の時期, 対象学年, 授業時間数 演習などの協力体制 実習施設・病棟 講義資料の保存場所・方法</li> <li>●部門会議について 部門会議の目的 部門会議の開催日時 会議の役割分担</li> <li>●部門で実施している学習会・抄読会など</li> <li>●教育機器に関すること(教材作成方法も含む)</li> <li>【教材作成機器】 コピー機, カラーコピー機, 印刷機, スライド編集機, ビデオ編集機, 大型プリンター</li> <li>【教材作成機器の使用方法】 プロジェクター・パソコンなど, 講義室の機材の使用方法など</li> </ul>	各部門長 各部門教員 部門の予定によって 調整

## II FD 研修会

本看護学部では、近年、教育方法の改善に対する関心が高まっていることから、2016年度もこのテーマを引き継いで、2回の研修機会を設けることとした。また、新たに着任する教員が増え、学部を構成する顔ぶれが変わり、互いにどのような考えや方法に基づいて教育を展開しているのかわかりにくくなってきていることから、こうした点の改善も念頭に、学部内外から教育方法の改善に意欲的、先駆的に取り組まれている先生方を招聘して、それらのご紹介を求め、学ぶプログラムを組んだ。

### A 12月研修会

日 時：2016年12月20日(火) 10:00~12:00

会 場：8号館S610教室

参加者：38名

学部内から、以下の二人の教員に登壇を求め、教育方法の改善に資する自己の考えや方法、課題として見えてきたことなどをご発表いただいた。

講師、演題と概要：

① 後藤 あや教授（総合科学部門）

演 題：エビデンスに基づく保健医療サービスが提供できるようになるために

概 要： 疫学と統計学の講義・演習では、地域の人々の健康を守るより良いシステムをつくるための6つの鍵（情報、サービス、人材、財政、機材、全体の統制）の中でも、情報とサービスに関する知識と技術を身につけることを目指す。具体的には、新しい言語を習得するように、疫学と統計の「言葉」を学び、実務で使えるように、統計学（1年前期）、保健情報演習（1年後期）、疫学（2年前期）とシリーズ化して、複合的かつ実用的な講義と演習を行っている。初年度は学生の意見を取り入れながら工夫を重ねているので、その様子も紹介する。

② 木下美佐子 准教授（基礎看護学部門）

演 題：ポートフォリオ、パフォーマンス課題を用いた授業

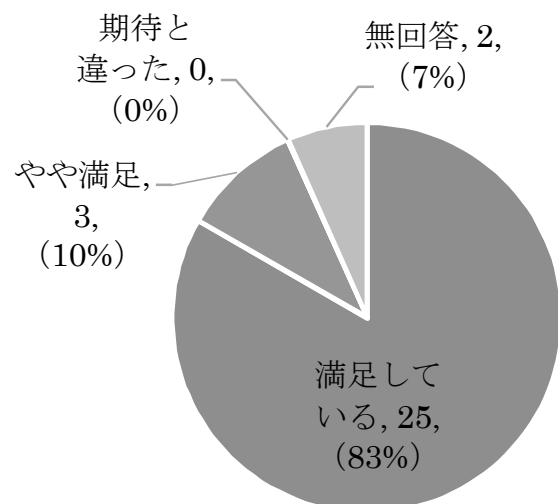
概 要： 看護学の基本Iは、看護学の導入として、また専門領域を学ぶ上での土台となる科目である。ここでは、看護の責務、看護の歴史、看護理論、看護の対象など様々な角度から看護を考え、理解を深め、看護職の将来を展望し、社会に求められる専門職としての看護について学習する。そこで、看護学の初学者に対する学習スタイルにテーマポートフォリオを活用したプロジェクト学習を用いた。さらに、西岡らが提唱

する「逆向き設計」に基づくパフォーマンス課題により求められている結果を明らかにした授業設計を行った。まだまだ試行錯誤中の授業展開である。当日は、学生が作成したプロジェクト学習成果、ポートフォリオ、パフォーマンス課題を展示する予定である。

なお、FD研修会では、毎回、参加者の意向を知るためのアンケート調査を実施している。今回の調査からは、以下のような意向を把握することができた。FD小委員会としては、概ね好評と評価している。

アンケート回収数：30（回収率78.9%）

### 1. 今回の研修間の満足度は？（図1）



### 回答の選択理由（記載内容）

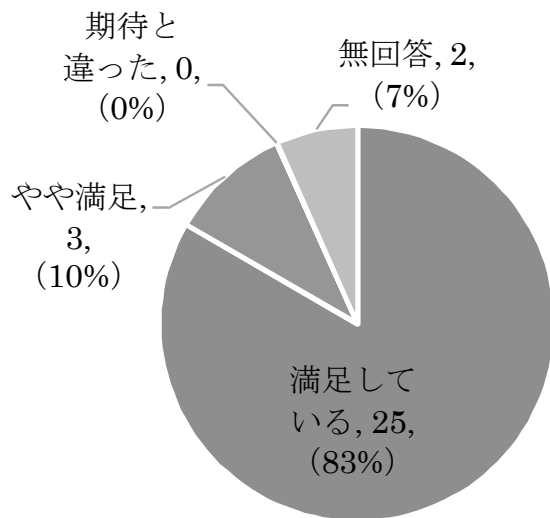
(1) 満足している

- ▶先生方の講義方法を知ることができ大変参考になりました。
- ▶他の先生の授業をきく機会がないので知れて勉強になった。
- ▶新鮮な授業方法で驚きました。
- ▶とても良かった。
- ▶大変勉強になりました。
- ▶面白かった。また後藤先生の話聴きたいです。木下先生：初めて聞く言葉が多かったので面白そうだが挙手するにはいたらなかった。本を読んでみます。

(4) 無回答

- ▶楽しかった。

2. 今後に活用できる研修内容でしたか？ (図2)



回答の選択理由 (記載内容)

(1) 満足している

- ▶ 授業設計・進め方など参考になりました。
- ▶ 来年度の講義の参考にさせていただきます。
- ▶ どう自分の授業に活かすか思案しています。
- ▶ お二人の話をまた聞きたい。

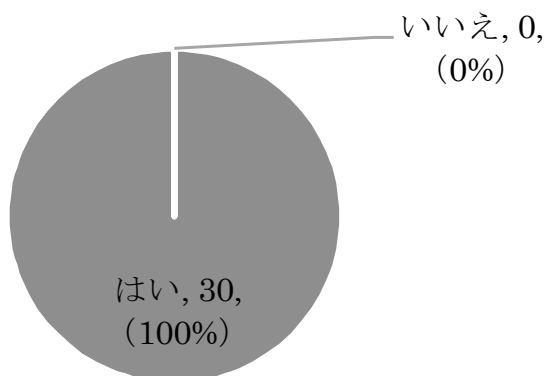
(2) やや満足

- ▶ 講義の作り方

(4) 無回答

- ▶ 活用できると思った。
- ▶ フィードバックの方法。教員は話さず学生が行動・ワークして学ぶ。教員はファシリテータ。パフォーマンス課題の評価方法を参考にしたい。

3. 研修の時間は適切でしたか？ (図3)



回答の選択理由 (記載内容)

(1) はい

- ▶ もっとじっくりと拝聴したかった。
- ▶ あまり長いと疲れるし、モチベーションが下がる。
- ▶ 長すぎず短すぎずでした。
- ▶ 授業等も落ち着いた時期でよかった。

4. 次回のFD研修会でとりあげて欲しいトピックについて

- ▶ 教育学の基礎
- ▶ 看護学だけでなく他にも通じる教育学について。例えば、本日の内容に関連する教育方法“大学でどう学ぶのか”をどう教えるのか。
- ▶ PBLについて
- ▶ deep active learning について
- ▶ TBL
- ▶ 授業の教授方法の工夫については、今後も継続して実施して欲しい。
- ▶ 引き続き、他の先生方の取り組み
- ▶ 継続して欲しい
- ▶ 1年次の最初の内容について聞かせていただき、今後も、その他の基礎科目やそこからの積み上げという流れで聞きたい。
- ▶ 授業評価のあり方と活用
- ▶ 医学部がI時限を90分から50分にしたことに伴う工夫・成果について
- ▶ カンファレンスのあり方 (実習)
- ▶ 臨床でのEBPの活用について

5. 今回の研修会について、ご感想・ご意見等ございましたらお聞かせ下さい。

- ▶ 二人の講演の場合、時間が足りないように思えた。
- ▶ 自分も先生方の授業を受け学び直したいと思いました。ありがとうございます。
- ▶ 先生方の講義・演習での工夫が色々を知ることができて、とても参考になった。
- ▶ 他の先生の授業展開を聴くことができ大変勉強になりました。
- ▶ 他の学問領域で教授している実際が知ることができて良かった。
- ▶ 教員同士が先生方の授業の一部に参加でき、臨場感ある内容で良かった。
- ▶ とても面白く聞かせて頂きました。ありがとうございました。
- ▶ お二人の先生方のお話は、今、自分でも迷ったり身につけたいと思っていたことにマッチしました。興味深いお話ありがとうございました。
- ▶ 発表して下さった先生方が、どんなことを狙い授業を組み立てているのかがよくわかりました。自分の授業にも取り入れたいと思うヒントが沢山ありました。ありがとうございました。
- ▶ 理論の説明だけでなく具体的な方策を盛り込んで説明があったのは活用できそうだと感じた。お二人とも、

具体的な事例を活用している点良かった。どう活用するかが各々の教員の課題なのだと感じた。多くのことを求めすぎないこと、しほりこむ必要を感じた。

- ▶楽しいFDでした。ポートフォリオは改めて勉強しようと思います。
- ▶学生の記録物を見る時間があると良かったと思います。
- ▶考えさせる力をいかに育てるかが大事であることを再認識しました。また、その力を今後は継続していく力、使える活用していく力をどうみにつけさせていったら良いかも考えて生きたいと思います。
- ▶後藤先生の講義がわかり易かった。次回もあると嬉しいです。講義の一部を体験させて頂けると印象に残ります。
- ▶発表者としても学びの多い研修会でした。
- ▶次回の active learning が楽しみです。

**B 3月研修会** ※2017年1月12日現在、以下のよう  
に準備が進んでいる。

日 時：2017年3月23日

会 場：8号館S302教室

アクティブラーニングに対する理解を一段と深めると共に、有効とみられる具体的な教育実践の手法を身につけることを目途に、アクティブラーニングの先端的な取り組みをされている研究者を講師招聘して学ぶ研修会を開催する。

講 師：五十嵐ゆかり 先生（聖路加国際大学ウィメンズヘルス・助産学准教授）

概 要：TBL（Team-Based Learning, チーム基盤型学習）の実際を、講義と参加者の体験、講師との質疑応答を通して学ぶ。

### Ⅲ 「医療人育成・支援センター」との連携

2016年10月11日、いずれもFDの推進を担って活動している学内の組織でありながら、それぞれの組織や機能などの詳細が互いによくわかっておらず、折々に齟齬が生じていた「医療人育成・支援センター」の担当者とFD小委員会のメンバーが初めて懇談し、全学的に重複なく、効率的にFD活動を推進していくために、有効な連携・協力体制を築くための協議を行なった。

この結果、今後は、医療人育成・支援センターの「看護学教育研修」部門長となる看護学部の教授職が、FD小委員会のメンバーを兼ねる仕組みにすることや、FD小委員会が有する外部の先駆的なFD研修機会に関する情報を「医療人育成・支援センター」に提供し、全学的に紹介することなどの提言がまとまり、看護学部学術委

員長に意見具申を行なった。

その後、学部長も加わり、上部組織での協議も経て、2016年11月より、いずれも実現に至った。